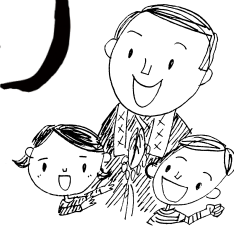


# 極楽寺だより



2013(平成25)年6月号

発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派） ☎759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎0837-43-0625

## 夏法座のご案内

雨の季節には、仏さまの教えを聞き、

静かにわが身をふりかえる「安居会」

「夏安居」という行事が、お釈迦さま

の頃から伝わっています。

田植時期の疲れを、お法の水で流そうという、ゆ

かしい夏の法座です。お誘いあわせ、お参り下さい。



六月 十日（月）

昼一時半 夜七時半

六月 十一日（火）

昼一時半

講師 美祢市明嚴寺住職

中島昭念 師



10日昼の席では、ホワンシィ・コーラスの皆さんに歌っていただきます。皆さんも一緒に、楽しく歌って下さい。

ご予約下さい

第50回三隅地区親鸞聖人鑽仰会法座

期日：9月4～5日 極楽寺引受け 講師：釈 徹宗師

# オシエノカケラ



毎日、お参りしましょう!

キャンペーン 第六弾

## 歴史が刻まれている

キズ



お仏壇ぶつだんとは、自分のいのちの行き先いきさきを阿弥陀

様に聞き、お浄土への人生を歩まれた先輩方の

歴史が、往生人おうじょうにんの歩みあきが刻まれた場所です。

しかし、いつからか私たちは、そんな先輩方の後ろ姿から目をそらし、テレビの画面や面白おかしいこと、お金にまつわることばかりを追いかけて、いのちの行き先を見失ってしまったのではないのでしょうか。

### 死んだり、どこへ行くの??

最近、飲み会などで、同世代の人たちから住職じゅうしやくである私に、こんなことを尋ねられるようになりました。「結局、死んだらどうなるのか。地獄や極楽は、本当にあるのか?」と。興味本意きょうみほんいの質問なのか、五十歳を目前もくぜんにしてそういうことにも興味が出てきたのか、大切な人との別れを経験けいけんしたからなのか。立場はそれぞれなので

しょうが、ではそこで私が「浄土じょうどがあるよ。」と簡単かんたんに言っ

いものなのか、考え込んでしまったのです。逆に、説得力せつりきよくがなくなってしまうようで。「浄土や地獄?そんなものあるわけないだろう。」「そういうのは、古い考え方だ。」そういう人たちが多くなってしまった時代に、どれだけ理屈りくつを並べたとしても、リアリティーを感じることはできないのでしょうか。何か証拠しょうこでもあれば説得力も出るのかもしれませんが、証明しょうめいしようがないことですし、「あるわけない」という人ばかりを見て育った人にとっては、簡単にうなずけるものではないでしょう。

ある女性が、高校生のお孫さんを脳腫瘍のうしゅやうで亡くされました。十代の、人生これからというお孫さんを見送る祖母としての悲しみを思うと、言葉になりません。その女性は、亡くなる前にお孫さんから二つのことを尋ねられたそうです。

## 出遇いがあるからこそ

信國淳のぶくにじゅんという先生は、自分の人生の行き先を決定けつていづけた、ある出遇いあを語られています。

私は不図ふとその「人」に出遇ったのである。その「人」がどんなだったかを語るのに、私は今更何の贅言ぜいげんも必要とせぬ。ただその「人」が、／稀有けうな、生きた「念仏者ねんぶつしや」であったことを言えば足りるのである。／その「人」を間近まぢかに見、その「人」の語る言葉を聞いたそのことが、私のすべてを一挙いっきよに決定けつていしたのである。／私は、「その人」に出会ったその夜、／昂奮こうふんして、妻に向かつてしゃべり散らした自分の言葉を今思い出して、その異様いようさに、自分ながらちよつと驚かざるをえない。

・・・私は浄土じゆつとに往く。浄土が何処どこかにあって往くというのではない。浄土を思想的しそつてきに考えたり、觀照くわんしやう的に捉えたりして、そこへ往くというのでも毛頭もうとうない。私が浄土へ往くという理由は簡単だ。私今夜、念仏して浄土に往く人を見て来たんだ。この眼ではつきり見て来たんだ。ただそれだけ。それでもう充分じゆうぶん。私はこの人を信じる。・・・」

(『いのち、みな生きらるべし』信國 淳)

そこに、念仏して浄土に往く人を見た。その人の生き様に、阿弥

一つは「おばあちゃん僕は死ぬの?」という問いでした。そして、もう一つは「おばあちゃん僕は死んだらどこへ行くの?」という問いだったそうです。そのお孫さんの問いに「私は、何一つ答えることができませんでした。」と語られた女性は、そのことを縁えんに、聞法もんぽうの歩みを始められたそうです。

でも、言えなかったということは、実はその方の誠実せいじつさをあらわしているのではないでしょうか。日頃はそんなことを考えたこともなく、天国も浄土も、あるなんて思ったこともなく、そんな場面に出くわした時だけ気休きやすめのように「死ぬんじゃないよ。また会える世界があるんだよ。」なんて、死を目前まへにした孫の真剣しんけんな問いに対してとても言えない。自分の日頃からの生き様いきさまを考えると、言えは言うほどその言葉が軽いものになる。そう思われたからこそ、何一つ答えることができなかつたのだと思います。

私が簡単に、浄土の話をしていいものなのか考えてしまうのは、やはり同じ理由からなのです。これだけリアリティーを感じられない時代に、言葉や理屈だけで、伝わるのかどうか、思わず考え込んでしまったのです。ならば私たちは、いのちの行き先を、何を根拠こんきよに見出すことができるのでしょうか。

陀如来のはたらきを見た。「ただそれだけ。それでもう充分」だと言えるような出遇いがあったからこそ、私たちの先輩方は、ただ念仏し、手を合わせるようになられたのではなかったでしょうか。その後ろ姿が、綿々と念仏申す歴史につながってきたのでしよう。

## なびく木が、風を知らしめるように

浄土については、こんな譬え話があります。風そのものは目には見えないけれども、なびく木々を見れば、風が吹いていることがわかる。同じように、お浄土そのものは私たちの目には見えないけれども、なびく木が風の存在を知らしめるように、その人の人生の歩みが、浄土のはたらきを明らかにするのだと。それは、立派な人になる、願いが適う、病気が治る、そんなはたらきではありません。人間である限り、病いも老いも、死もまぬがれることはできません。思い通りにならないし、人に迷惑をかけずにしかな生きられない。しかし、オロオロうろたえながらも、阿弥陀様の呼び声であるお念仏をよりどころに、現実に向き合いながら生きていく歩みです。阿弥陀様に励まされ、共に生き抜く歩みです。

そこに、自分の人生を、他者の人生を、尊く豊かなものにしていくはたらきを見た人があった。人生を虚しいものにしなさいとい

う、お浄土のはたらきを感じた人があった。そして、同じ道を歩みたいという人が生まれたのです。その歴史は、お仏壇の前で綿々と受け継がれていたはずなのに、いつからか、その後ろ姿よりも、テレビの画面や面白おかしいこと、お金にまつわることばかりに気をとられ、私たちはいのちの行き先を見失ってしまったのではないのでしょうか。

## 目に見えない道を、歩むには

『インディ・ジョーンズ 最後の聖戦』という映画があります。冒険家で考古学者のインディ・ジョーンズ博士はイエス・キリストの聖杯を求めて、洞窟を進みます。途中、古文書をたよりに様々な罠を避けながら行くのですが、突然大きな谷底が目の前に広がりました。底が見えないような深い谷を渡らなければ、聖杯のある洞窟へはたどりつけません。古文書には、「神を信じて、飛び降りよ」とあり、空中を歩む人の姿が描かれています。とはいえ、なかなか深い谷底へと飛びこめるものではありません。



す。とはいえ、なかなか深い谷底へと飛びこめるものではありません。

ません。しかし、銃弾に倒れた父親を救うには、聖杯の力がどうしても必要なのです。心を決めて飛び降りると・・・、そこには目には見えない透明な道が用意されていたのです。インディは砂をかけて、後を進む者に道のあることを教え、洞窟の奥へと進んでいききました。

いくら、古文書に書かれていようと、理屈や理論で説明しようとも、目には見えない道を進む気には、なかなかありません。しかし、先を歩む人がいるからこそ、その後ろ姿をよりどころに歩むことができないのではないのでしょうか。

親鸞聖人は、念仏が浄土への種なのか、地獄への業なのかはわからない。ただ、私は法然上人の仰せに従うだけだと言われたと、『歎異抄』第二条には書かれています。そしてその文章は、次のような言葉で結ばれています。

「このうえは、念仏をとりて信じたてまつらんとも、またすてんとも、面々の御はからいなりと云々」(『歎異抄』第二条)

法然上人との出遇いが真実であったということに絶対の自信がなければ、ここまでキツパリとは言い切れません。私はいつも、この部分を読むたびに、感動し、シビれるのです。ああ、私も同じ↓

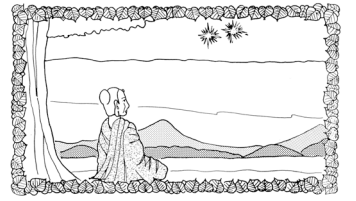
道を歩みたい。この歩みから生まれてくる気づき、喜び、感動を、共に味わいたい。あるかないかはわからないけれども、私にはこの道しかない。ただ、そうとしか言えないのです。

## 後ろ姿でしか

お仏壇の前で、阿弥陀様に手を合わせ、お念仏される方を「染香人」と言われます。香りが自然と染みこむように、如来の智慧のはたらきが、その人の身の上に荘厳されていくのだと。つまり浄土とは、理屈で伝わるものではなく、歩む姿勢の中で伝わっていくものだと言えるでしょう。歩む人の後ろ姿こそが、私の中の行き先を、リアリティーをもって指し示して下さる根拠なのです。

お仏壇とは、自分のいのちの行き先を阿弥陀如来に聞き、浄土への人生を歩まれた人々の、往生人の歩みの歴史が刻まれた場所です。その歴史を深く味わう時に、私のいのちの行き先も明らかになってくるのです。■





## 極楽寺掲示伝道 けいじてんどう



## 5月の言葉

たものです。

親鸞聖人は、ご和讃に

「煩惱にまなこさへられて

摂取の光明みざれども

大悲ものうきことなくて

つねにわが身をてらすなり」

しぼられるなんて、嫌だと。それが自由な生き方だと。しかし、それは「自分の思い」にしばられている姿ではないでしょうか。「自分の思い」とは、厄介なものです。思い通りになっている時にはよいのですが、思い通りにならない時には、自分を苦しめ、傷つけ、殺しさえるのですから。

いよいよ、うちの長男も受験生となりました。ふと気づくと、「勉強しているだろうか」「隠れて、ゲームばかりしてはいないだろうか」「大丈夫か」と、心配ばかりしている自分がいます。ですからつい、口やかましくなったりもして。しかし、彼はというと、こちらの心配をどれだけ受け止めているのか、「大丈夫」「わかっている」と繰り返しばかり。「親の心、子知らず」とは、よく言ったものです。

としめされました。煩惱に覆われて、私たちは阿弥陀様の光を見ることはできないけれども、阿弥陀様は厭きることもなく、常に私を照らして下さいとおられるのだと。阿弥陀様から願われ続けているのが、この私なのです。私が手を合わせている時でも、忘れているときでも、背いているときでも、どんなことがあっても、厭きることなく、私のことを願い続けておられるのが阿弥陀如来という仏様なのだと言われます。

この私にどんな願いがかけられているのか、どれだけ心配され、どれだけ大切に思われているのか。その思いに気づかされた時、「私のいのちは、私のもの」と軽々しくは言えないはず。それは煩惱に振り回されて、自分の尊さを見失った言葉ではないありません。

しかし、よくよく考えてみれば、私もそうやって育てられてきたのでしょう。にもかかわらず、その心をどれだけ受けとめてきたのかと考えると、ただ、ただ、恥ずかしいばかり。「親の心、子知らず」とは、よく言っ

近頃は、「私のいのちは、私のもの。だから、何をしても私の自由だ。」と言われる人が多くなってきました。「人の思い」に

私たちは先輩方は、阿弥陀様を「親様」と呼んで、その願いを深く受け止めて生きていかれました。では、私はどんな生き方をしているのでしょうか。「親の心、子知らず」とは、よく言ったものです。ただ、ただ、頭を下げずにはおれません。■



## 6月の言葉

私たちの考え方の基本にあるのは、「役に立つ」か「役に立たない」かというものではないでしょうか。薬草も雑草も、その考え方が決めたものです。

しかし、「役に立つ」ことだけが大切にされる世界では、自分が「役に立たなく」なったときには、生きてはいけません。

お笑い芸人であり、役者、作家、画家、そして世界に名を知らしめる映画監督北野武こと、ビートたけしさんが、『騙されるな』という詩を書いておられます。これを読んで、僕は少し泣きました。

人は何かひとつくらい

誇れるものを持っている

何でもいい、それを見つけなさい

勉強が駄目だったら、運動がある

両方駄目だったら、君には優しさがある

夢をもて、目的もて、やれば出来る

こんな言葉に騙されるな、

何も無くていいんだ

人は生まれて、生きて、死ぬ

これだけでたいしたもんだ

(ビートたけし詩集『僕はバカになった』)

自分が「役に立つ」人間だと思えるときには、何とない言葉なのかもしれません。しかし、自分が「役に立たない」人間だとしか思えないとき、この言葉は心に沁みてきます。生きる勇氣となつてきます。(たけしさんの言葉って上から下へと憐れんでいるようには聞こえないのですよね。「あんちゃん、騙されるなよ」と、同じ地平に立って投げかけられているように思えるのです。)

やはり人間は、「役に立つ」か「役に立たない」かということよりも、まず「生きていい」と認められることからしか、始まらないのではないのでしょうか。そして、阿弥陀如来とは、この私の存在を丸ごと受け容れ、そ

のままを認めて下さる仏様なのだと思えるのです。

近頃は「自尊心」(自分自身を価値のある存在としてとらえる感情。うぬぼれやわがままとは違い、未熟さなどのマイナス要素を含めて、自分自身を受け容れることができること。)の大切さが叫ばれています。「自尊心」が高い子どもは、自分だけでなく他者に対しても寛容になり、集団行動にもうまく適応できる傾向があるようですが、低い子どもは不安感が強く、やる気や意欲、集中力がなく、不登校やいじめ、学級崩壊の要因になったりするケースが少なくないようです。

その「自尊心」が作られていくには、3歳ぐらいまでの幼少期の環境が大きく影響するといわれます。どんなに泣き叫んでも、どんな行動をしたとしても、その自分を丸ごと受け容れてくれる親の態度が、不可欠なのだそうです。

つまり「自尊心」が注目されるということとは、子どもの存在を丸ごと受け容れ、大切だと抱きしめる親が減ってきたことの、裏

返しだとも言えるのでしよう。子どもは、自分の楽しみを奪い、仕事や自己実現じこじつげんに対する邪魔じゃまな存在しんざいにしか思えない。「役に立つ」なら、生きる資格もあるけれども、そうでないなら・・・。それらはすべて、そんな親に原因があるのではないのでしょうか。「役に立つ」か「立たないか」という価値観が真実だと育てられてきたからこそ、そんな親が生まれてきたのではないのでしょうか。

親鸞聖人が日本のお釈迦さまと尊敬された、聖徳太子のものとして伝えられている「世間虚仮せけんこけ 唯仏是真ゆいぶつぜしん」(世間は虚しく仮のものであり、ただ仏様の教えだけが真実である)という言葉があります。私には、聖徳太子の「世間虚仮」という言葉と、たけしさんの「騙だまされるなよ」という言葉が重なるのです。

世間せけんじゃあ「役に立つ」か「立たないか」で

物事を量はかるけれど、騙だまされるなよ。

お前は生きていいんだ。生きる資格しかくなんてないんだ。

阿弥陀様は、自分を丸ごと受け容うけいれてくれる仏様なんだ。

だから、その真実の呼び声を聞く人生を、

歩んでいこうぜ。

「世間虚仮せけんこけ 唯仏是真ゆいぶつぜしん」という言葉と出

会う度に、そう聞こえてくるのです。■



極楽寺揭示伝道

## 第31回 児童念仏奉仕団のご案内

大津東組（長門・三隅地区の浄土真宗寺院）では、夏休みを利用して小学三年生から中学一年生を対象に、ご本山参りを企画しております。是非ご参加を、お呼びかけ下さい。

- ◆期 日 2013(平成25)年7月24日(水)～26日(金) 二泊三日  
本願寺参拝 大阪ユニバーサルスタジオジャパン
  - ◆対 象 小学三年生～中学一年生
  - ◆参加費 38,000円(極楽寺より、些少ですが補助が出ます。)
  - ◆申込み 7月5日までに極楽寺へ
- ※ 詳細は、お寺へおたずね下さい。

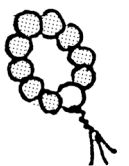


### 極楽寺だよりを送riませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺から、直接郵送します。

お寺まで、お持ち下さい。

### お念珠 修理いたします。



□今回より、レイアウトを変えてみました。いかがでしょうか。皆さんの声を聞きながら、試行錯誤していこうと思います。□最近、文章が長くなってきて、反省しきりです。どうしたら短くなるのでしょうか。誰か教えて下さい。とほほ。